

# 人工林資源の循環利用促進に伴う 苗木の動向について(その2)

森林整備部

森林整備課

平成30年7月に掲載された本広報誌第169号の(その1)では林業用苗木(全般)について説明したところですが、今回は花粉症対策苗・コンテナ苗について説明します。

## 【花粉症対策苗への転換について】

スギは広く植付けられてきましたが、最近では国民のおよそ3割がスギ花粉症になっていると言われ、社会的にも大きな影響があります。関東局管内の国有林は1都10県にまたがり、首都圏近いことから、関東局では、平成21年度から花粉症対策苗木(無花粉・少花粉苗等)の植栽とスギ以外への樹種転換を進めており、これらを合わせると、平成29年度末までの目標570haに対し、約616ha(達成率約108%)の見込みとなっています。今後、国の政策目標として、平成44年度までにスギ苗木生産量に占める花粉症対策に資する苗木の生産量の割合を約7割とする方針となっていますが、関東局では、1年でも早く目標を達成できるように花粉症対策苗木等への転換を加速させています。

## 【コンテナ苗の活用】

これまでスギ人工林は間伐を行う林齢のものが多数を占めていたため、苗木の需要の減少により苗木生産量も減少し、苗木生産者の減少と高齢化が問題となっています。また、スギに限らず林業用の苗木は、苗畑から掘り起こしたままの状態では梱包し出荷する裸苗の生産が主体となっていました。裸苗の生産においては、畑に種を蒔いた後(播種)、苗木の成長に合わせて苗木の間引きと間隔



出荷される裸苗



苗木が成長し密集してくると根きり選苗、床替えを行う

を空けての植え直し(根切り、床替え、選苗)を繰り返して、出荷できる大きさになるまでに3年程の時間と時間がかかります。

これらを改善するために、近年各地で取り組まれているのがコンテナ苗の生産です。コンテナ容器には、いろいろなタイプがありますが、底面が開き、側面にスリット(切れ目)が入っているコンテナ容器は、根が巻いてしまうのを防ぐことができます。ことから、多く用いられています。また、コンテナ苗の生産では、床替え、根切りが不要になり、自動散水器による省力化も可能です。

コンテナ苗(150CC)容器にスリットが入っている



根が空気にふれることで根切りがされ根巻きが防止される

コンテナ苗の植栽時のメリットとしては、専用器具の使用により植栽の作業能率が上がることで、培土とともに植え付けるため、裸苗よりも乾燥に強く植栽時期も幅があります。

一方、コンテナ育苗施設を設置するには初期投資がかさむ上、裸苗よりも梱包や運搬に手間がかかるため、価格が高いというデメリットもあります。関東局管内ではスギ裸苗の平均価格115円に対し、スギコンテナ苗は171円(約1.5倍)となっています。価格の低廉化には、需要増による生産規模の拡大と、残苗によるロスを少なくすることが必要とされており、150円以下(裸苗の約1.3倍以下)になれば植栽コストの削減にも繋がるといふ試算も出されています。なお、近年は大企業による施設栽培での効率的な苗木生産が各地で開始されたことから、価格の低廉化が期待され



自動散水器により決まった時間に決まった量の散水が可能

ています。今後、主伐・再造林を進めるに当たり、苗木の確保や質の向上、価格の低廉化等、課題も多く複雑ですが、苗木の需要を安定させるなど、地域林業の活性化に繋がるような取組を国有林が率先して行っていきたくと考えています。



改良型 デイブルの柄を木製にして軽くした 容器苗植栽用の器具 デイブル

### きのこ特集

食べたらダメ!

カエントケ(猛毒) (ニクザキン科 ポドストロマ属)

八月下旬から十月上旬にかけて広葉樹の枯木や切株に発生する。

子実体は高さ5cmから10cm位の円柱状で赤色から淡橙色で時に根元から枝別れして、手の平の形の様になることもある。

カエントケ(火災)の和名の由来は子実体が炎の形になることから、名前がつけられたが、近年は円柱状の子実体をした物が多く見られる。

別種と考えるべきだと思いが、まだ区別はされないで、同種にされている。実際は何種類かあるようで、素手で触ると皮膚がただれると言われ

るほど危険なものや、触っても害の無いタイプのものもある。



### 今月の表紙

笠取山 (埼玉県秩父市)

埼玉森林管理事務所管内にある「秩父山地緑の回廊」一帯は、景観に優れたうえ、希少な野生動植物が生息・生育するなど、豊かな森林生態系が維持された地域です。

しかし、近年、シカなど野生動物による樹木の剥皮被害が拡大しており、深刻な問題となっています。

このため、埼玉森林管理事務所では、緑の回廊内において特に被害が多い笠取山(写真)周辺を中心に、一般公募ボランティアによる樹木保護ネット設置作業を平成20年度より実施しています。

今年度9月末に第11回目の作業を実施することとしており、麓から2時間以上歩いて現地に到着する大変な作業ですが、今後とも、地域と連携し獣害対策等に積極的に取り組んで行くこととしています。



笠取山で獣害対策保護ネット作業へ向かう一行